

Perlで小プロジェクトを始めよう!

(WhatsNewの場合)

Kiyoka Nishiyama

1. WhatsNewとは
2. 開発の経緯
3. 開発スタートまでの裏話
4. Perlを選択した理由
5. プログラマから見たWhatsNewの特徴
6. 現在
7. 将来
8. 参加のしかた

1. WhatsNewとは

- WebSiteの更新箇所をひと目でわかるようにするもの。
- ライセンスはGPL2

2. 開発の経緯(ニーズ1)

更新箇所のチェックをスムーズに行ないたい。

いろんなWebsiteを日頃チェックするうち、次のような問題に気づいた。

- WebSiteが大きく、更新箇所が分かりにくいページが多い。



- 更新箇所を探すため、もう一度WebSite全体を読み直す必要がある。
- 注意しないと細かい変更箇所を見逃してしまう。

2. 開発の経緯(ニーズ2)

そこで、自分のWebSiteだけでも改善したいと考えた。

やりたいこと....

- 更新記録を自分で書くのが面倒なので自動化
- 変更箇所のチェック
- 追加箇所のチェック

2. 開発の経緯(ニーズ3)

さらに、発展させたい。

ツールのコードを同じニーズを持つ人たちと共有したい。

- 作ったツールを自分の範囲で終わらせるのではなく、同じニーズを持つ人たちと共有したい。
- アイデア・考えかたを発展させたい。

3. 開発スタートまでの裏話(プロジェクトモデル案)

こんなプロジェクトがいいのではないかと考えた。

小さなツールを開発する場を作る。

- 100行くらいのプログラム
- 第一バージョンが 1時間程度で書けてしまうようなもの。
- プログラミングが好きな人の要求も満たせるもの。
- 二次的な目的として、共同開発の演習がやりやすい場を作る。
(ESRがfetchmailでバザール開発の実験をやってみたというように)

3. 開発スタートまでの裏話(メリット)

「小さなツール」プロジェクトのメリット

■プロジェクトの創始者から見ると

- ▶最初のバージョンが即リリースできる。
- ▶ニーズはほっといても出てくる(はず)。
- ▶共同開発のよい演習になる。
- ▶ニーズのなくなったプログラムはすぐ捨てられる。(短いプログラムなので、それほどもったいなくなっているのではないか)
- ▶100行ほどのプログラムなので、管理しやすい。(プロジェクト管理の演習になるし失敗もそれほど痛くない)

■参加する側から見ると

- ▶短い(と期待する)プログラムなので、みんなでつつきやすい。
- ▶いつでも誰でも参加できる。
- ▶たった1回のパッチだけの参加もできる。

4. Perlを選択した理由

- 環境として普及している。(たいていシステムにinstallされている)
- 使用言語として普及している。(使える人が多い)
- プログラミング入門者にもソースをいじってもらえる。(はず)^_^

5. プログラマから見たWhatsNewの特徴

バザール開発を促すための特徴

- プログラムが短い(実質200行ほど)
- できる限り既知の外部プログラムを使用している(diff,cp等)
 - ▶ 新しい知識をより少なくするため
 - ▶ 複雑なアルゴリズムを外に出し、ソースを簡単に保つため

6. 現在

コントリビュートしていただいた方々

- みずのさん(lilo) patch
- 森若さん(lilo,kansai.pm) patch
- たけさん(lilo,Debian JP Project) debianパッケージ化

その他の方にもアイデアの提案をたくさんいただいています。

7. 将来

近い将来の方向

- たまったTODO事項に対応する。
- ML の立ち上げ

遠い将来の方向は今後のニーズで決まります。
(提案の内容 -> 方向性の決定)

8. 参加のしかた

- patchを作って投げる。
- 使って、不満をぶつける。
- その他、やりたいことをやる。(GPL2の範囲内で)

<http://www.bekkoame.ne.jp/~kiyoka/whatsnew/>

「Perlで小プロジェクトを始めよう!」 おわり